

令和4年度 小松島高校第1回学校運営協議会議事録

- 1 日時 令和4年5月24日(火) 午後3時から午後5時
- 2 場所 小松島高校大会議室
- 3 会次第

(1) 開会

※ 録音, 写真撮影の承諾

(2) 学校運営協議会員紹介

(3) 学校長挨拶 [小松島高校 校長 元山茂樹]

① コミュニティ・スクールの概要についての説明

この会は、昨年度までは学校評議員制度・学校関係者評価委員会として年2回実施し、評価・助言を頂いてきたものであるが、今年度から学校運営協議会として実施し、学校の取り組みについて、ご意見・ご協力・評価をいただく形で進めていきたい。生徒が社会の中で学び、社会と関連づけて学ぶことで人間的な成長を促すという目標を掲げて、取り組んでいきたい。

② 役員選出について

元徳島大学教職教育センター 副センター長中川さんに会長を依頼し、副会長は元山が務めさせていただきたい。(全会一致で承認)

[中川会長の挨拶]

今年度から徳島県内すべての学校で運営協議会を置くことになった。新しくスタートする小松島高校のより良い人材、将来地域で活躍する人材に関わることができることを嬉しく思っている。学校運営協議会の機能としては、学校評議員制度の時と違って、助言をするだけではなく、当事者意識を持って責任を持って取り組まなければならないと思っている。広く地域住民の意見を取り入れながら、実り多い会となるよう尽力していきたい。

(これ以降中川会長が進行)

(4) 協議

① 令和4年度学校経営方針について

② 小松島高等学校の現状と課題について

[小松島高校 校長 元山茂樹]

小松島高校は、一昨年度創立90周年を迎えた。現在は中規模校であり、教員数も減少傾向である。新しい教育課程・新学習指導要領については、今年度の1年次から年次進形で導入していく。

進路状況については、最近の傾向として4年生大学へ進学する生徒が増えてきた。就職は従来は40名程度いたが、現在は10名前後に減ってきた状況である。大学への進学をサポートする体制を改めて作っていかなければならない。

部活動も盛んであり、実績としてはライフル射撃部が全国でも上位の成績を収めている。また、体操競技・新体操や陸上競技も全国大会に出場している。生徒が様々な部活動に取り組むことができる環境を作りたいが、教員数の減少の影響があり、難しい状況である。こうした状況は本校だけではなく他の学校も抱えている課題であり、社会体育との連携など地域の中で部活動を実施していく必要がある。

この他にも、防災教育・主権者教育なども取り組んでいる。

本校では、5年前に松高未来のための学びプロジェクトを組織し、教育のグランドデザインを作成した。これは、校訓に合わせる形で、自分とむきあう力、人とむきあう力、世界とむきあう力を持った生徒の育成を目指したものであり、それぞれの項目下に目指す能力を5つずつ配置している。今年度から、教育委員会によって全ての県立高校に対してスクールミッションが設定され、「育成を目指す資質・能力に関する方針」、「教育課

程に関する方針」「入学者の受け入れに関する方針」といった三つのスクール・ポリシーも設定されたが、それらもこのグランドデザインに沿ったものとなっている。

本年度の重点課題としては、学力を向上させるとともに主体性を育成することに重点を置いていく。そのために授業改善や教員の取組の改善、生徒の学びの改善などを実施し、多様な進路に対応できるようなキャリア支援を充実していく。また、GIGAスクール構想の推進も必要である。一人一台端末が生徒に行き渡ったが、コンピュータを操作するスキルも含めてどのように学びに活用するかを本格的に進めなければならない。

これらの取組を実現するためには、地域の学びの場、地域との連携体制の強化が必要である。コミュニティスクールを通してご意見やご協力もいただきながら本校の教育活動を充実していきたい。

(島委員)

本年度の重点課題の中のGIGAスクール構想と地域連携体制の強化について質問したい。

特に地域連携体制の強化については、地域住民と同じ課題意識を持つことが必要であると考えます。今何が注目され、連携上何が課題となっているのかについてご説明いただきたい。

(廣瀬教頭)

国が進めるGIGAスクール構想であるが、感染症拡大のために、前倒して予算がつき、昨年度は一人一台端末が整備され、ハード面では揃った。

本年度の課題としてはソフト面の充実である。教員が一人一台端末を使いこなして、生徒に主体的、対話的で深い学びを提供できるような授業の充実が今年の課題である。

そのためには、生徒が自主的に使えるようにしていくことが大切である。電子黒板が全ての学校に整備されたが、それらを活用し、生徒の意見を取り入れた授業も展開できる。それを用いて深い学びに繋げていきたい。本校でも「松高GIGAスクール」と題して取り組んでおり、ホームページにその内容も掲載している。昨年度は徳島県全ての学校でベネッセのClassiという教育クラウドを利用したが、松高ではそれに先駆けて2年前から導入し先進的な取組を行っており、多くの生徒が活用している。

(島委員)

若い世代はデジタルネイティブと言われてきたが、最近はソーシャルネイティブと言って、ICTを使いこなすだけでなく、ネットワーキングができる力が求められている。企業の求める人材も突出してコミュニケーション能力が求められるが、縦や横のつながりだけでなく学外などの斜めの関係などの多様な関係性を構築する力が必要である。このGIGAスクール構想の中で、ICTを使ってそれらのネットワーキング力を高めてもらうとよりいいと思う。

(廣瀬教頭)

そうした力の育成が授業の目標でもあり、学校評価の目標でもある。

(中川会長)

GIGAスクールを通じて、生徒一人一人の主体的な深い学びにつながるように、電子黒板の活用やClassiを活用して個別最適な学びを提供するというお話であった。

もう一つの地域連携体制の強化ということについて校長先生から説明をお願いしたい。

(元山校長)

地域連携について、まず一つ目は「防災」が挙げられる。この高校は地域の一時避難所にもなっている。生徒たちもこれからの時代、南海トラフ地震の警戒も含めて地域と連携して防災の意識や知識を高める必要がある。

また、松原育樹ボランティア等のボランティア活動を通して、地域に貢献する意識を

向上させることが、キャリア教育にもつながっていくと考えている。

加えて、総合的な探究の時間で、観光であったり、資源であったり、地域について学ぶ中で、地域の課題を見つけて、解決していく力を育みたいと考えている。そうした探究の時間で地域の方々にご協力いただけることはないかなと考えている。

また、実現は難しいかもしれないが、部活動等も地域連携の中でできることはないかと考えている。

(中川会長)

地域連携の中で防災の意識、また探究の時間で地域の課題を知るということが考えられるということであった。島委員は「学校が地域の方と同じ問題意識を持つためには、地域の方が持っている問題意識を把握する必要があるのではないか」という質問をされているのではないかと。

(島委員)

はい。把握できていればより良いと思う。

周知の事実であればいいが、潜在的な問題もあるかもしれない。高校側としても時間との兼ね合いもあると思うが、可能な範囲で地域と共有できるような課題があればと思う。「防災」という切り口はいいと思う。

(元山校長)

ボランティア活動の中では、小松島市から要請があって行なっている活動もある。その中で、地域の課題を把握できたらと考える。

(中川会長)

ボランティアも地域の要請もあって行なっているので、地域の要請も含んだものであるということである。

学校経営方針と現状と課題についての質問はここまでで承ったということにする。

学校運営協議会の中で学校経営方針の承認を行うことが大事ということである。

校長から説明のあった学校経営方針を会として承認するというところでよろしいか。(全会一致で承認)

協議

③ 令和3年度学校評価総括評価表と令和4年度学校評価総括評価表について

(廣瀬教頭)

本校では毎年3月に学校評価委員会を開催し、令和3年度の学校評価総括表について協議いただき、学校ホームページに掲載している。昨年度の重点課題やそれに対する取り組みについて、3月の評価委員会において承認いただいた。

本年度の学校評価計画については、昨年度の評価をもとに計画した。

本年度の評価計画については、本年度の重点課題を達成するために各担当が具体的な目標を設定し、評価指標・活動計画を定めたものとなっている。

重点課題としては「主体的・対話的で深い学びを実現する」など5つの項目を挙げている。GIGAスクール構想の考え方に通じるが、学びについては、主体的・対話的で深い学びを実現していくべきであり令和4年度の計画の1番目の項目となっている。計画表の中に記載されている番号は本年度の重点目標の番号であり、所管する担当課を示している。2番目のキャリア教育の充実というのは、生徒一人一人の夢の実現について支援していくというものである。1年生・2年生は未来手帳を活用して自己管理と反省、各種の講演会で学ぶことを書いて振り返りを促すことを目標にしている。3番目の生徒主体の活動の充実としては、部活動やボランティア活動等の生徒会活動などの活動が挙げられる。先ほど紹介した運動部だけでなく、文化部も頑張っている。例えば、書道部は、小松島警察署から依頼を受けて交通安全の標語を書いている。また、生徒会活動も頑張っている。

生徒会主催で行なっている表彰伝達は特徴的で、表彰伝達とは違って、どんな活動をしたのかを全校生徒の前で自分で発表する形で自分達の成果を披露している。

4番目のGIGAスクール構想の推進は、先ほど説明しました。5番目の地域連携体制の強化は、今年度のコミュニティスクールの導入が大きな目標であり、委員の皆さんの意見を学校の教育活動に反映させ、学校運営協議会の機能を充実させていきたい。

(中川会長)

校長先生から説明のあった本年度の重点目標を学校評価を通して具体的な目標を各担当に落とし込んで、PDCAサイクルを回して実施していくという話であった。次第にある令和3年度の学校評価統括評価表については、よろしいか。

(廣瀬教頭)

令和3年度については、昨年度末でお認めいただいているということで認識している。

(中川会長)

令和4年度学校評価総括評価表について、ご承認いただけるか。(全会一致で承認)

次に、協議題4の学校運営協議会(コミュニティスクール)導入についての新しい取り組みについて、事務局から説明をお願いしたい。

(廣瀬教頭)

中学校関係者・大学関係者・小松島市の方・地域の方がこの会に参加いただいている。まずは中学校と高校のスムーズな接続のための連携を考えた。校長先生いかがか。

(小松島中学校 藤本校長)

スクールミッションが印象に残っている。地域経済活動や社会生活を豊かにするための実践力を育成するというのが重要な点であると思う。私自身も小松島市の出身である。生まれそだった街を活性化したい気持ちは強い。かつては活気のある街であったが、人口が減少し、子どもの数も減少している。小松島中学校長として、生徒に地元のことを考えられる生徒になってほしい。小松島出身の私の使命はそこではないかと考えている。同じ思いで中学校の生徒と高校生が地域に関わっていけたらと考える。

(廣瀬教頭)

私どもの提案としては、生徒授業を継続して行わせていただきたいと考えている。また探究活動の連携やお互いの授業参観や交流をさせていただくと一歩進んだ形になるのではないかと。さらにキャリア教育の連携としてキャリアパスポートを見させていただいて、高校でどのように発展させていくか検討を重ねることができればと考えている。

(中川会長)

中学校として、生徒の実践力の下支えとして連携を深めていきたい。高校としては探究学習の連携や授業参観・キャリアパスポートの連携などを進めていきたいということであった。

(佐藤委員)

いいアイデアであると思う。高校生の探究活動の深まりを感じる。達成感を味わっているようである。そのような経験を中学生のうちにも感じることで、面白い変化が起こるのではないかと考える。ただ、連携は非常に難しいと感じる。だが、連携が実現すれば素敵だと思う。また、キャリアパスポートは非常にいい仕組みであると考えている。生徒に使うように伝えているが、まだ活用しきれていない生徒もいるようである。キャリアパスポートの中高の連携はいいアイデアであると思う。

(中川会長)

佐藤委員の発言にあった「連携は非常に難しい」「キャリアパスポートをあまり使えていないのではないか」について、説明をお願いしたい。

(廣瀬教頭)

キャリアパスポートを活用できていない生徒については、働きかけをしていきたい。

(中川会長)

中学校のカリキュラムを確認するだけでも勉強になる。また、教員がそれぞれの授業を参観したり、カリキュラムをもとにお互いの授業を見直したりすることも非常に重要なことである。

それでは、協議題5番の各委員からの提言に移る。お一人ずつ意見を頂戴したい。

(佐藤委員)

まず素晴らしい協議会を開いていただき感謝申し上げる。子どもたちの未来を感じる説明であった。評価表も見やすくなっていて、それぞれの重点課題がどのようにつながっているのか分かりやすくなった。前年度も前々年度も提言させていただいたが、もっと社会をみる時間を作ってあげてほしい。生徒と関わっていると、目標が大学進学になっている子もいる。将来、自分の個性を活かして自分のやりたい道に進むことを応援してあげられるような環境を作っていきたい。大学に進学することは手段でしかない。県下の高校の授業を見ると朝から夕方まで授業が詰まっている状態の中、松高は放課後の時間がある。先ほどの説明の中の書道部の活動など部活動を通して社会とつながるような経験は素晴らしい。単にボランティア活動をするだけでなく、地域が抱える課題を自分のものとして自分の課題として認識して共通認識を持って取り組むことで、達成感や一人ひとりの成長の精度や度合いや経験の質の高さも変わってくる。単にボランティア活動をさせるだけではなく、時間的には難しいかもしれないが、その中で見えてくる課題が地域の経済活動や社会生活を豊かにするという教育方針にあることを高校生自身が見つけて考えるよう、生徒自身がアンテナを立てられるような支援を生徒たちに提供して社会に送り出すことができたらいいと考える。

(志摩委員)

佐藤委員がおっしゃったように社会との繋がりを通じて、自分がありたい姿を模索し、方向性がみえてくるのではないかと考える。そして学部選択をして社会に向かって歩いていく。大学を先に決めると理想だけを追い求めてしまうのではないかと思う。自分にふさわしいあるべき姿をめざしていければ素晴らしいのではないかと思う。今回の目標・計画は素晴らしいと思う。次回までにさらに読み込んで参加したい。

(西川委員)

私は、昭和36年に松高を卒業した。学校経営にPDCAの手法や観点別評価としてABCの評価が入ることに時代の大きな変化を感じる。高校という場所は自分探しがまだできていない子どもたちが高校に入ってきて、目標探しの階段に足をかけることができる場である。つまり大学や就職など、一段上がるというような目標をカチッと掴む。地域と連携というのは非常にありがたいが、実力養成の部分も大切である。私自身、高校3年生の時の恩師の「社会の調子が悪い部分は政治家が働きかけていかなければならない」という一言で、政治の道を志した。地域の中に松高があるので、地域の課題と向き合う生徒にとって有意義な活動を展開してほしい。同窓会に市議員が5名いる。小勝地区の町長にも小松島高校の同窓生がいる。行政の中にも松高の同窓生がいる。生徒とともに課題を探してくということによってポイントをついた事業展開ができるのではと考える。おじいちゃんおばあちゃんの2人の世帯も増えている。祭りはない。青年団がなくなって地域の組織がない。若者の活力をどのようにしたら反映していけるか、生徒や教員から率直

な意見を川や海にいろんなところに展開していけばいいのではないか。地域連携の方針は素晴らしい。学校教育の充実を忘れないようにして行ってほしい。

(柏尾委員)

自分の子どもが高校3年生だが、自分とむきあうことは難しいようである。キャリアパスポートを利用するとともにボランティアなどを通して地域の皆さんと交流することで社会性を磨いて行ってほしい。

(内山委員)

市の課題を申し上げるとみなとまつりの開催の事前に市の職員と地元の企業とそうじをしていたが、実施が難しい状況である。高校にもボランティアとしてお手伝いいただき、その中で小松島の観光についても知っていただけたらありがたい。市内に観光案内ボランティア協力隊というものがある。小松島南駅にも観光案内やミニ88カ所があるが、担い手が少ない。こういったところにも連携できることがあるのではないかと考える。将来小松島のために貢献したいという意識を育てるためにも連携をしていきたい。

(廣瀬教頭)

昨年度まではNPO法人に協力いただいて、ボランティア活動に熱心に活動したものについてボランティア認証登録をしていた。今年度はできない方向。小松島市にご協力いただくようお願いをしているところである。社会の課題を見て自分の進路につなげていけたらと考えている。

(佐藤委員)

高校生がボランティア活動に参加するとき単なる働き手として扱うボランティア団体が多い。委員がいれば心配ないと思うが、学びの場を提供するという視点でボランティア活動を提供するというのを組織の中で周知徹底してほしい。

(中川会長)

学びの場を提供するという意識が市の方でも必要ということである。

(谷本委員)

中央会館は教育委員会の生涯学習課の所管になる。「まつぼっくり」の活動に小松島高校生や小松島中学生、小松島南中学生に参加いただいており、感謝申し上げます。成人式や秋の芸術祭などの受付などでもお世話になっている。

話は変わるが、学校案内のグランドデザインの表記の方法については、変えた方がよいと思う。

(藤本委員)

本日は委員として参加させていただいたが、小松島中学校の学校経営を考える上でも非常に勉強になった。先日元山校長が来校いただき、生徒授業を今年度も継続したいという校長の意向に非常に感銘を受けた。中学校も高校との連携を大切にしていきたい。地域に開かれた教育活動も盛んに展開していきたい。小松島高校が考えていることは私たちにとっても示唆の多いものである。先ほど提案いただいたキャリアパスポートや探究活動、ボランティア活動で連携をしていけたらと考える。非常に勉強になったことは地域の課題意識をまず把握して、地域と共有することが大事だということを教えていただいた。そこを疎かにしてはいけない。

(中川会長)

課題解決学習というが、課題が見えてこそその解決である。おっしゃる通りである。

(沖委員)

教育委員会として小中学校を支える立場としていつも考えていることは、小中学校も地域とともにということを進めている、保護者とはつながりがある。昔は祭に参加することで地域と関わることができていた。小松島高校はグランドデザインという非常に綺麗に整理されたビジョンがある。中心になるのは未来手帳。生徒授業やボランティア活動を通して未来手帳に書く材料ができる。手帳を書いていくなかで、自分ができる。「小松島中学校から小松島高校で育った、小松島市で育った」という意識が育てば、いつか小松島にもどってくるような人材になるのではないかと。答えがでるのは10年後20年後である。世代が代わったときに答えがでる。このような取組が継続してくれればと思う。中学校と高校のつながりができればと思う。教育委員会としての仕事についても考えていきたい。

(島委員)

スクールミッションに地域の経済活動・社会生活とあるが、経済は経世済民の略である。世を治め、民を助ける。今の世の中はまだ成長と言っているが、実質的には成長ではなく「定常」の時代に入っている。定常の時代といえば、江戸時代であり、文化が花開いた時代でもある。成長ばかり追いかけると小松島の花が咲かないと私は感じた。定常の時代の中で、経済はお金が増えるという捉え方ではなく、定常社会では幸福度を追求していけばいいのではないかと考えている。沖縄は年収でいえば、比較的低い都道府県であるが、幸福度で測ると上位にあると言われている。お金がないからネガティブに捉える必要はないのではないかと。地方都市共通の捉え方でいいのではないかと。小松島も徳島県全域が地方都市の中に入るわけで、お金でこれからの時代をいくより、最先端をいくのであれば幸福のWell-beingで戦略を立てていった方が、地元子どもたち、あるいは大人は希望を持って暮らすことができるのではないかと。グランドデザインは、「自分・人・地域」とあるが、昔の近江商人の「三方よし」と同じ捉え方で、「売り手よし・買い手よし・世間よし」と全く同じ構図であると考えている。近江の企業人と話をしていると、今は「次世代よし」を加えて「四方よし」になっているそうだ。「四方よし」になることで世の中が持続的になる。そのあたりをWell-beingと絡めると物質的なものではなく、精神的なものを大切にす時代がもう来ているのではないかと。

大学で学生と話していると、お金ではなく自分たちの生きがいを探求する世代になっていると感じる。地域の誇りや存在意義というところで松林のボランティア活動はすごくいいことであると考えている。肉体的な貢献だけでなく、小松島の松を誇りと感じるような精神性を織りなしていくような教育とボランティアを織りなすような活動であってほしいと思う。陸前高田にボランティアに行ったが、7万本の松から奇跡的に一本だけ松が残ったところがある。地元住民はその松に誇りを感じ、その一本の松をみて、東京に避難することなく陸前高田にとどまったという人もいる。見えないもので人を繋ぐ、小松島につながるというようなものが松高のグランドデザインの中には秘められているのではないかと考える。そういった精神的なところが揃ってくると、内発的に動くようになるのではないかと。内発的に動くようになると何を勉強するのかに加えて、なぜ勉強するのかという内発的な動機が加わってくると、主体性が活かされてくると考える。精神的なところを教育に反映して欲しい。IQに対してSQやEQがある。このような観点からも、松高で先進的に取り組んでいただきたい。

(中川会長)

最後に私から質問をさせていただく。文部科学省のホームページに「STEAM等の横断的な学習の推進」が掲げられており、数学、芸術、工学などの学びを総合的に問題解決に役立てる力を育成することが求められている。小松島高校では、文系・理系で分けて教育課程を考えているようだが、文部科学省では文理の枠にとらわれることなく学びを統合していくべきだと言っている。高校としてはどのように考えているのか。

(元山校長)

限られた時間の中で教科科目の履修習得をしていくためには、文系理系といった教育課程の編成が必要になり、ほとんど全ての学校でそうした教育課程を編成していると思う。問題はどのように学力をつけていくかということである。ただ、勉強せよというのでは、生徒が主体的に勉強に取り組むのは難しい。本校としては、今回の学習指導要領改訂で主体性を育む取組も取り組んでいきたい。これから生きていく中で、社会のことを知り、自分の価値観を持ち、本校を卒業して社会に出て活躍する人材になっていくような教育に取り組みたい。地域と連携する中で様々なことを学ばせていただきたい。

本校には、小松島の経済や地域の課題を見つけて、大学進学に繋げていく生徒も多い。地域の中で学び、地域の課題を知るためには、課題を把握する力も大切である。そのような力をつけるための学びを深められるようなご協力をお願いしたい。委員の皆様のそれぞれのご提言については学校内で共有し検討していきたい。

事務連絡（廣瀬教頭）

- 1 第2回運営協議会を11月頃実施予定。第3回は2月または3月に実施したい。第2回については学校評価の中間アンケートの結果をお示しできればと考えている。また、新たな取組等について報告できればと思っている。中学校や大学、地域企業との連携を検討していく。開催の1ヶ月前にはご連絡いたします。
- 2 資料について学校の広報活動を行うものについてご覧いただきたい。
- 3 議事録については、公表する前に事前に了承をいただく。